

□議員名：杉本 保喜

論点	災害時におけるタイムライン（事前対応計画）の運用について問う。 ア 住民に対する情報の周知対策はどうか。 イ 河川水位の情報公開の具体策はどうか。
回答	5月に開催された減災対策協議会でタイムラインが承認され、試行運用後に来年運用していく。県下で逃げ遅れゼロを目指しており、本市も公報において警戒レベル4で全員避難できるよう今後しっかり努めていく。防災士への協力は今後考えていくが、今回庁内でスマホ41台更新して映像を通じて河川等の情報共有を図る。水位情報を得る装置の設置は要望し、県とも検討中である。

論点	率先避難（迅速）避難の体制づくりが本格化する中で、避難所の受入体制を問う。 ア 高齢者や要配慮者の福祉避難所を含む避難受入対策（衣・食・住）はどうか。 イ ペット同伴の避難対策はどうか。
回答	高齢者や要配慮者の避難は、まず安全確保を優先して一般避難所に避難し、そこで保健師等のスクリーニング等の所見に基づき、福祉避難所に連絡調整して移送する。福祉避難所での受入運営経費は市が全額負担する。緊急持出袋の必要性は、出前講座を通じて危機意識、問題意識を高めて頂くよう努めたい。ペット同伴の避難所は現在ないが、屋外の屋根のあるスペースを設けて飼育者の責任において飼育することとしている。飼育者には事前にペットにケージに慣れさせることや予防接種等必要な準備をしていただきたい。

2 市民の健康維持増進対策について

論点	総合計画を基に、各プランが作成されているが、そのすみ分けと関連部門との協働を問う。
回答	健康増進に関する対策の「見える化」の取組みが十分ではないが、笑顔で年を重ねることのできるまちづくりに繋がる「スマイルエイジング」として全庁を挙げて一体的に取り組む推進本部を設置した。大和市のように将来の都市像まではいけませんが、この目的のために各部署がリンクしていくよう整理しながら進めたい。

論点	高齢者の運動習慣を支援する方策の成果と今後の促進策を問う。
回答	住民運営憩いの場におけるいきいき百歳体操を推奨し、4年余り実施して頂いているが、参加率が伸びている。介護予防としても期待できるので充実発展に取り組みたい。健康遊具については閉じこもり予防や健康づくりに有効であるが、事故対策や維持管理等の問題もあり直ちに実施するとは言えない状況にある。

※一般質問(代表質問)における論点について、わかりやすくまとめる。

文字は12ポイントで統一し、ひとり3枚以内とする。

1つの論点と回答につき、論点は2行程度、回答は4行程度とする。